

海を照らす灯台のなかまたち (8)

～伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台～

(いよみさきこういのうらだいいちぼうはていとうだい)

井野浦第一防波堤灯台は、三崎港より見えています。



行ってみると思ったより距離があり、およそ2キロあまりだろうか高浦などいくつかの集落を過ぎ、そんなに長くはない防波堤に着いた。

この灯台も港に入るとき右側にあり、塔の色は赤、光も赤です。

ここからも半島の高台には、風力発電の風車がよく見えます。

ムーンビーチ井野浦海水浴場は、平成元年度から8年間をかけて整備した延長307メートルの人工の砂浜で突堤に囲まれ、湾曲した砂浜は、潮の満ち引きにより形が月の満ち欠けを思わせてくれます。

三崎湾の南岸にある「阿弥陀池」は広さ約5ヘクタールの潟湖で、鯉・鰻・鮒（ボラ）が泳ぎ、四季を通じて釣りファンの格好の穴場となっており、野鳥も飛び朝霧も美しく、桜も楽しめます。

近くの井野浦池尻には、波よけ風よけの石垣群が見られます。

白い砂浜が広がり、キャンプ場、海水浴場などとしても賑わう

この一帯は県立自然公園となっています。

【三崎港周辺図】



そして、今注目されているのが、これも井野浦地区にある佐田岬半島の近代化を支えた三崎製錬所跡を後世に伝えようと、住民有志が保全活動に取り組んでいます。

旧三崎精練所は、1900年に設置され、江戸期以来の古い手

法で銅を取り出していた「荒吹」と呼ばれる作業が使われていた。

焼窯は青石をアーチ状に組んだ構造で約20個が現存する。

旧三崎町誌によると煙害を訴える地元住民の襲撃や銅価格の暴落で、わずか8年後に閉鎖され、技術革新前の姿が残されているのです。

県の統計によると1906年の県内の鉱山、鉱区数は83ヶ所で内44ヶ所が佐田岬半島内にあった。

住友のような資本力を背景に発展した東予の銅鉱業とは対照的に、新興事業主が鉱山の開発経営を競い、衰退、統合を繰り返していた。

この産業遺産を「このまま放置すれば貴重な文化遺産が失われる。」、地元の理解あってこそ維持できる。次第に活動の輪が広がり地元住民の協力もあり活動は前進しています。

今回は、灯台から逸脱してしまい灯台の周辺情報が主となってしまいました。

○伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台要項

所在地 愛媛県西宇和郡伊方町井野浦

塗色・構造 赤色、塔形

灯 質 等明暗赤光 明3秒暗3秒

光達距離 5.5海里（約10.2km）

高 さ 地上から構造物の頂部まで 9.5m

平均水面上から灯火まで 13.0m

地上から灯火まで 9.38m

点灯年月日 昭和49年3月27日

★「大八車」No.222（令和2年7月10日発行）掲載分

○伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台周辺画像

伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台（遠方より撮影）



伊予三崎港井野浦第一防波堤灯台

ムーンビーチ井野海水浴場

